

## 【 臨床研究に関する情報の公開 】

内視鏡的治療（ESD、ERCP）で当院を受診された患者さまの試料・情報を用いた医学系研究に対するご協力のお願について

項 目	内 容
1. 研究課題名	内視鏡的治療（ESD、ERCP）に伴う鎮静薬使用患者に対する転倒予防を意識した看護介入の検討
2. 研究の対象者	2022年7月1日から2022年9月30日の間に、当院の消化器内科において内視鏡的治療（ESD、ERCP）を受けられた方
3. 研究期間	令和4年11月10日 ～ 令和9年11月10日
4. 研究実施体制と研究責任者	研究実施場所：関西電力病院消化器内科 研究責任者：消化器内科 福間麗子
5. 本研究の意義・目的	消化器内科病棟では検査時に薬剤にて鎮静をかけることが多く、覚醒不十分で病室へ帰室する患者が多い。そこで、帰室後の初回歩行時にはナースコールを押してもらい、看護師と共に初回の歩行を行う必要性を患者本人へ説明するが、帰室直後は覚醒不十分であるため患者自身の理解度を確認することは困難な現状である。今まで検査後に転倒する事例が少なかったが、2022年4月に、検査後に患者自身で初回歩行を実施したことにより転倒、外傷を負った事例が起こった。転倒した対象者は、ADLが自立した患者であり、認知機能もしっかりしていたが、転倒して外傷を負い、アクシデントに繋がったことにより病棟スタッフの中でも印象的な事例であった。そこで転倒後に振り返りを実施したが、十分に対策が明らかになったとは言いがたく、さらに、転倒予防策の実施は患者への声かけのタイミングや環境整備等、看護師それぞれにケアの差があることが分かった。そのため、今後も起こり得る事象として、内視鏡治療に伴う鎮静薬使用後の転倒予防に繋がる看護師の行動を明らかにし、今後の転倒予防対策に繋がるようにしていきたい。
6. 研究の方法	内視鏡的治療（ESD、ERCP）を行った患者のカルテから看護師の転倒予防行動を時系列に調査し、看護師のどのような行動が転倒予防に繋がっているのか、明らかにする。
7. 研究に用いる試料・情報の種類	内視鏡的治療（ESD、ERCP）に伴う鎮静薬を使用した患者の看護計画、日々の経時記録
8. 試料・情報の保管方法と廃棄方法	廃棄については、研究発表後、5年間保管し、データ廃棄の際は、複数名で完全にデータを消去したことを確認する。 紙類はシュレッターで廃棄する。
9. 個人情報の保護について	情報収集には、診療IDや患者識別コード等を用いることで匿名化されています。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者へ知られたりすることはありません。研究にご自身の臨床データや試料を提供したくない場合は、11. 問い合わせ・苦情等の窓口へお申し出ください。お申し出いただいても、診療等に不利益が生じることはありません。
10. 情報管理責任者	関西電力病院消化器内科 福間麗子
11. 問い合わせ・苦情等の窓口	〒553-0003 大阪市福島区福島2丁目1番7号 関西電力病院消化器内科 13階病棟 電話：06-6458-5821（代表）